

印西大師 第41番 竹袋・三宝院

1 名称 (No.041)〔手引鏡：三宝院〕〔資料館：三宝院〕〔行程表：三宝院〕

2 場所 印西市竹袋157 三宝院

神宮寺から道程約200m 車多く歩道なし！

GPS座標 35.83039263153372, 140.15999238896245

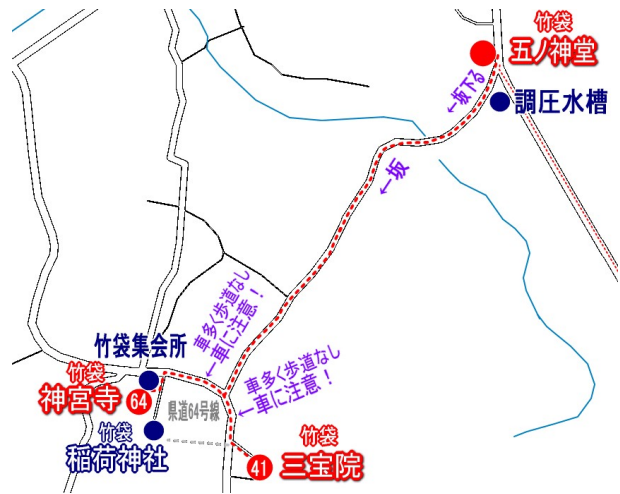
3 由緒 天台宗 稻荷山 神宮寺 三宝院

三宝院は、元々慈眼院といい、寛正6年(1465年)8月に比叡山西搭正観院から来た天台宗系の道心祐善房によって竹袋に創建され、慈眼院が三宝院と改められ、現在地(稻荷神社脇)に移ったのは寛文年中(1661～63年)の十三世尊久の時からと伝えられています。(印西名所図会)

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。

5 境内 大師堂のほか印西七福神(恵比寿)がある。静かな境内で参道は苔がきれい。

6 写真 (2019.08、2021.11、2023.01、2023.10撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



本堂



山門



山門前の稲荷神社

7 情報

(1) 印西大師 第41番 三宝院 御詠歌 (泉倉寺本による)

此(この)神は三国流布の密教を 守らせ玉ふ誓いとぞ聞く

四国八十八ヶ所 第41番 真言宗御室派 稲荷山(いなりざん) 護国院 龍光寺(りゅうこうじ) 写し

(2) 三宝院 (さんぼういん)

現地にある説明板には、三宝院に「さんぼういん」とルビがふられていました。ただし、天台宗のホームページの寺院検索では、「三宝院 (さんぼういん)」と表示されています。

「三宝院は元々、慈眼庵(じがんあん)といい、寛正6年(西暦1465年)8月に比叡山西塔正観院(さいとうせいがんいん)から来た天台宗系の道心祐善房(どうしんゆうぜんぼう)によって竹袋に創建

され、慈眼庵が三宝院と改められ、現在地に移ったのは寛文初期(西暦1661－63年)の十三世尊久(そんく)の時からと伝えられています。この時期に三宝院は竹袋村の檀那寺になり、やがて竹袋稻荷の別当寺として稻荷山神宮寺三宝院と称するようになりました。

三宝院の本尊は阿弥陀如来で、総州六阿弥陀(そうしゅうろくあみだ)の五番札所にもなっており、また、印西大師の四十一番札所でもあります。

三宝院は竹袋稻荷神社境内にある観音堂の鋳銅鰐口(ちゅうどうわにぐち、来拝時に打ち鳴らす鐘の一種)を管理しており、この鰐口は市内で最も大きく、縦45cm、横50cm、厚さ16cmあり、昭和54年(西暦1979年)に印西町(当時)によって町の有形文化財に指定されました。この鰐口には現世と来世を安楽に暮らせるように祈願する文字が刻まれています。出典:印西名所図会(一部改製) (現地の説明板より)

(3) 総州六阿弥陀

総州六阿弥陀とは、文政10年(1827年)開創の霊場で、第1番・徳満寺(利根町布川)、第2番・延命寺(我孫子市布佐)、第3番・泉倉寺(印西市和泉)、第4番・長楽寺(印西市大森)、第5番・三宝院(印西市竹袋)、第6番・勢至堂(利根町布川)は現存せず布川不動堂(利根町布川)へ移動と、番号の付いた札所が6か所のほか、最勝院(印西市発作)、来見寺(利根町布川)、無量寺(利根町中谷)、念仏院(利根町押付新田)、瑞光寺(利根町押付新田)から水神宮(利根町押付本田)へ移動、と番外の札所が5か所あり、計11か所の札所で構成されている。(「ニッポンの霊場」HPより)

(4) 竹袋稻荷神社

三宝院と道路を挟んだ西側に竹袋稻荷神社の朱色の鳥居、谷になった参道があります。参道は北側にもありますが、こちらの方が風情があります。本殿は煌びやかな彫刻が施され、ピカピカです。10月の祭礼(2023年は10月7日～8日の2日間)は、神輿や山車が出て盛大です。

「竹袋にある稻荷神社は、京都伏見稻荷神社の勧請による分霊社です。祭神は蒼稻魂命(うかのみたまのみこと)で、これは一切の食物を司り、特に稲などの穀物の生産・豊穰を守護する神様です。正一位の称号は享保14年(1729)船尾村神官香取氏の添状によって賜ったもので、その宣旨は現在稲生神官によって大切に保存されています。その創建は、和銅4年(711)といわれ、約1300年もの間、人々に信仰されてきました。また、この稻荷神社は、明和6年(1769)に村中の寄進と一戸、月あたり5文ずつの講掛けによって再建されたという記録がありますが、現在ある建物は昭和10年に改築したときのものです。」(「印西名所図会」より)